

「表面科学」執筆の手引き（2016年2月6日改訂）

1. 投稿原稿の作成

1.1 原稿の構成

原著論文・速報・ノート・総合報告・研究紹介・ポピュラーサイエンス・実験ノウハウ・談話室・メッセージボード・企画記事の原稿はテンプレートを用いて以下の順に表記すること。

- 1) 表題 2) 著者名 3) 所属機関名 4) 所在地
- 5) Title 6) Author(s) 7) Affiliation(s) 8) Address
- 9) 英文要旨（和文要旨※）

原稿本文の内容の要旨を英文で書く。原著論文・総合報告・研究紹介・ポピュラーサイエンス・企画記事は **150 語程度**，速報とノートは **70 語程度** とする。ギリシア文字などの特殊文字の使用は出来る限り避けること。談話室・実験ノウハウへの投稿原稿では英文要旨（および和文要旨）は不要である。

※和文要旨は「英文要旨の和訳」とし，投稿票に記載する。

10) キーワード

原著論文・速報・ノート・総合報告・研究紹介・ポピュラーサイエンスでは，英文キーワードを5つ以内で取り上げ，KEYWORDS: に続けて書くこと。原則小文字とする。

11) 原稿本文

和文の場合には常用漢字を用い，新仮名遣いで書く。英文の場合は，米国綴りを推奨する。

1.2 原稿の体裁

テンプレートを用い，原稿の長さや図の質，文字の見やすさなどを確認する。用紙の下中央にページ番号を打つこと。

1.3 電子ファイルの作成（Web 投稿の手引きを参照のこと）

- a. テンプレートを用い図を貼り付ける。図は鮮明であること(300 dpi 程度以上)。原稿送付は，Word 形式(.doc)（推奨）または PDF 形式(.pdf)とする。また，投稿票，カバーレター（速報のみ）を用意する。
- b. 図・表の電子ファイルは，300 dpi 程度以上で独立したファイルとして作成する。電子ファイルの拡張子は，.pdf .eps. jpeg .png .gif .jpg .tif .tiff 形式とする。査読プロセスにおいては，図表を Powerpoint ファイル(.ppt) にまとめたものでも構わないが，採択後は独立したファイルを用意する。
- c. アップロードできるファイルの容量は総計 20MB とする。

2. 原稿本文作成時の諸注意

2.1 句読点

和文の場合には，句点は「。」，読点は「，」とする。

2.2 数字

本文中で使用する数字は，原則としてアラビア数字とする。位取りのコンマは付けない。

[例] 1,500 K → 1500 K

漢字やひらがなと結合し，名称として現れる数字は漢数字とする。

[例] 一つ，二重線，三体問題

2.3 立体とイタリックの使い分け指針（ここでのルールはあくまでも指針であるため，論文内で統一されていれば必ずしも従わなくても良い。）

- a. 変数を示す記号：原則としてイタリック体。

[例] 座標軸 x , y , z

[例] 化学式，化学反応式の変数 $\text{La}_{2-x}\text{Sr}_x\text{CuO}_4$

[例] フェルミエネルギー E_F （F は Fermi を表し，物理量ではないので立体）

[例] i 番目の原子位置 \mathbf{R}_i （ i は変数なのでイタリック体，ベクトル \mathbf{R} は太字に）

b. ラテン語：全てイタリック体とする。

[例] *ab initio a priori ca. e.g. et al. in vivo i.e. in situ vs. etc.*

c. 演算記号・単位：演算記号や単位は立体とする。単位は原則として国際単位系（基本単位、補助単位、固有の名称を持つ組立単位を含む）を使用すること。

[例] sin cos exp d Δ

[例] m (長さ) s (時間：秒) min (時間：分) h (時間：時) mol (物質質量)

kg (質量) K (温度) J (熱量) Pa (圧力) V (電圧) Ω (電気抵抗)

d. 元素記号・電子軌道：立体とする。

[例] Cu, Zn, CH₃OH

[例] 3d 軌道, O 2p 準位

2.4 省略語

省略語は、最初に出てくるところで原綴りを書く。

[例] 密度汎関数理論 (density functional theory, DFT)

2.5 外国人名・地名

外国人名や地名は原綴りとする（アルファベット以外の文字の場合は英語綴りに直したものをを用いること）。ただし、人名が学術語となっている場合、日本でよく知られている地名の場合はカタカナを使うことができる。

2.6 脚注

本文中に*, **などの記号で示し、それが現れるページの下部に本文とは別の脚注のためのスペースを設け、その欄に脚注を書くこと。

3. 図表

3.1 本文中、図は Fig. 1, Fig. 2, Fig. 3(a), Fig. 3(b), …, 表は Table 1, Table 2, …で指し示すこと。

3.2 図や表のキャプションは英文とする。

3.3 図や表の中では英文を用いること（数量記号として用いるギリシア文字は使用できる）。

3.4 カラー図について。

a. 著者は、図を白黒もしくはカラーのどちらで出版するかを、投稿票で指定すること。

b. オンライン版ではカラー図を推奨する。ただし、同じ図を冊子版で白黒図に指定することが可能である。

c. 同一図をオンライン版でカラー、冊子版で白黒とする場合、著者はカラー図と白黒図の双方を作成しなければならない。

3.5 同一図をオンライン版でカラー、冊子版で白黒とする場合の注意点

a. 図キャプションでは、次のように color online の文言を付けること。

[例] Fig. 1 (color online).

b. 本文中では、図に用いた色、または濃淡を指し示す解説をしてはならない。

[してはならない例 1] 赤色で示された領域は…である。

[してはならない例 2] 薄い太線は、…の変化を示したものである。

(注) 同一図が冊子版とオンライン版でカラーの場合あるいは白黒の場合には、これに当てはまらない。

4. 文献

4.1 本文中では引用文献を¹⁾のように、あるいは^{2, 3)}や⁴⁻⁷⁾のように肩書きにした番号で指定すること。

4.2 一つの引用番号に対しては一つの論文のみを引用すること。複数の引用論文を一つの引用番号に割り当ててはいけない。

4.3 本文の末尾に、引用した文献を対応する番号と共に一覧にして記すこと。

4.4 本文の補足説明は脚注（2.6 節参照）を利用し、引用文献欄に補足説明を付記するのは避けること。

4.5 推奨されない書き方 (英和文混合は避ける)

推奨されない書き方 → 1) 例えば, H. Nakai: Chem. Phys. Lett. 363, 73 (2002)を見よ。

推奨される書き方 → 1) See, for example, H. Nakai: Chem. Phys. Lett. 363, 73 (2002).

4.6 引用文献の例

書き方は, ジャーナルの場合には「著者名: 雑誌名 巻数, 開始ページ (発行年)」, 図書の場合は「著者名: “書名” [エディター名] (出版社, [出版社所在地,] 出版年) [章あるいは開始ページ]」 ([]内は省略可)を基本とする。

総合報告, 研究紹介, 原著論文, 実験ノウハウの引用文献は著者全員の名を明記すること。

その他, 学位論文, 予稿集, 特許に関しては下記を参照のこと。

和文ジャーナル・和文図書・英文図書の名称は省略できない。英文ジャーナルは省略が可能である。英文ジャーナルの省略規則はアメリカ物理学会(APS),もしくはアメリカ化学会(ACS)のホームページを参照のこと。省略規則があいまいな場合には, 省略せず全て書くこと。

<http://d22izw7byeupn1.cloudfront.net/files/styleguide-pr.pdf>

<http://www.cas.org/content/references/corejournals>

a. 和文ジャーナル

1) 吉川英樹, 嘉藤誠, 境悠治, 福島整: 表面科学 **23**, 25 (2002).

b. 英文ジャーナル

2) T. Hirahara, I. Matsuda and S. Hasegawa: e-J. Surf. Sci. Nanotech. **2**, 141 (2004).

3) K.L. Brogan, J.H. Shin and M.H. Schoenfish: Langmuir **20**, 9729 (2004).

4) Y. Morikawa: Phys. Rev. B **63**, 033405 (2001).

c. 和文図書

5) 井口洋夫: “シンクロトロン軌道放射光” 市村禎二郎, 旗野嘉彦, 井口洋夫編 (学会出版センター, 1991).

6) 藤本大三郎編: “細胞外マトリックスのバイオサイエンスとバイオテクノロジー” (アイシーピー) p. 111.

7) 井口洋夫: “元素と周期律表” (裳華房, 1980).

d. 英文図書

8) S. Morita, R. Wiesendanger and E. Meyer (Eds.): “Noncontact Atomic Force Microscopy” (Springer, Berlin, Heidelberg, 2002).

9) H. Seki: “Electrochemical Surface Science”, ed. by M.P. Soriaga (The American Chemical Society, Washington, D.C., 1988) p. 322.

10) “Surface Analysis by Auger and X-ray Photoelectron Spectroscopy”, ed. by D. Briggs and J.T. Grant (IM Publications, 2003).

e. 学位論文

11) 近藤剛弘: 筑波大学大学院工学研究科博士論文 (2003).

12) D.A. Mantell: Ph.D. Thesis, Yale University (1983).

f. 講演大会予稿集 (頁がない時または頁の代わりに発表番号を記載)

13) 石井達也, 加藤英樹, 工藤昭彦: 日本化学会第78春季大会講演予稿集I (2000) p. 322.

14) 相馬清吾: 日本表面科学会第31回表面科学学術講演会要旨集 (2011) 16Bp-01.

15) S. Aramaki and T. Murayama: Proc. of IS & T's 11th Int. Congress on Advances in Non-Impact Printing Technologies (1995) p. 26.

g. 特許

16) 尾形俊昭: 特開昭 59-75205 (1984).

17) J.S. Beck: U.S. Patent No. 5,057,296 (1991).

4.7 [オプション] DOI (Digital Object Identifier)の併記

DOIが付与されている引用文献にDOIを併記すると, リンクが付く可能性が高くなる。DOIを併記する場合, 以下の例を参考にすること。※ DOIは必ずしも併記する必要はありません。

吉川英樹, 嘉藤誠, 境悠治, 福島整: 表面科学 **23**, 25 (2002), doi:10.138/jssj/23/285.

5. 英文のチェック

5.1 アブストラクトや図表のキャプションは、ウェブページへの掲載や他の雑誌に引用されることもあります。これら英文は、著者の責任において、ネイティブによるチェックなどを行って下さい。

6. 転載許可

6.1 過去に掲載（発表，出版）された論文の全体，または図や表の一部を投稿論文で使用する際は著作権を有する学会等への転載許可の申請が必要である。申請は著者の責任で行って下さい。